

自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子どもを育てる道徳科学習指導 ～自分との関わりで深める発問と話し合い活動の工夫を通して～

要約

平成27年3月、学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられた。これは、これまでの道徳の時間から、大きく二つの課題が指摘されたからである。一つ目は量的課題、二つ目は質的課題である。このことを踏まえ、子どもが自分自身のこととして考え、課題意識をもって主体的に考える学習、資料中の登場人物に共感するだけで終わらない学習、多様な価値観を磨き合う学習への転換が図られている。

しかし、自分自身のこれまでの道徳の指導を振り返ったとき、課題の捉えさせ方、発問、話し合い活動のさせ方について、質的課題があった。

また、本学級の子どもは、道徳の学習において、道徳的な課題を自分のこととして捉え、考えを深めることができていなかった。そのため、自己と向き合わせる必要があると考えた。さらに、事前アンケートより、友達との関わり方に対する課題意識の低さが見られることから、人との関わりに関する価値項目Bを実践につないでいきたいと考えた。特にいじめアンケートの結果より【B相互理解、寛容】に重点をおいて、道徳性を高めたいと考えた。

よって、自分との関わりで深める発問と話し合い活動の工夫を行い、自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子どもの育成を目指す本研究は意義深いと考える。そのため、次のような具体策のもと研究を進めていくことにした。

- ① 自分との関わりで考えられるように、発問の大きさや立ち位置を考えた発問を仕組む。
(置き換えて立場を問う発問と価値を問う発問)
- ② 立場シールや立場カード使って自分の立場や考えを可視化し、多様な考えを生かして話し合い、多面的・多角的に考えられるようにする。(討議形式の話し合い活動)

実践の結果、次のような成果(○)と課題(●)を得た。

- つかむ段階で立場シール、ふかめる段階で立場カードを使って自分の立場を可視化し、自分との関わりで考えさせたことで時間軸の視点で自己を振り返ったり、心の変容に気付いたりすることができ、自己の生き方を見つめることにつながった。
- 置き換えて立場を問う発問と価値を問う発問を行い、討議形式の話し合い活動を取り入れたことで、多面的・多角的に考えを深めることができた。
- より、多面的・多角的思考を深めていくための視点移動を生かした発問の工夫や、立場カードを有効活用した交流のさせ方の工夫が必要である。

キーワード 自己の生き方を見つめる 自分との関わりで深める 発問と話し合い活動

1 主題設定の理由

(1) 道徳科のねらい・「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」から

平成27年3月、学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられた。これは、これまでの道徳の時間から、大きく二つの課題が指摘されたからである。一つ目は、道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があり、他の教科等に比べて軽んじられ、他の教科等に振り替えられていたという量的課題、二つ目は、学校間、教師間の取組に大きな差があり、道徳の時間の指導方法にばらつきが大きく、また、授業が単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけという指導になりがちだという質的課題である。これらのことを踏まえ、子どもが自分自身のこととして考え課題意識をもって主体的に考える学習、資料中の登場人物に共感するだけで終わらない学習、多様な価値観を磨き合う学習への転換が図られていると言える。

(2) 指導上の課題から

自分自身のこれまでの道徳科の指導を振り返った時、次の三つの課題があると考えられる。

一つ目は、道徳的な課題の捉えさせ方である。これまでは、子どもにとって資料中の出来事として考えさせるだけで終わってしまうことが多かった。そのため、自分にとって追求する必要感や切実感をもたせることができなかった。

二つ目は、発問である。これまでは、ある場面の登場人物に共感させて、心情の変化の理由を問うような発問が中心になってしまっていた。そのため、資料の主題やテーマを掘り下げて追求するような発問ができていなかった。

三つ目は、話し合い活動のさせ方である。話し合う視点や目的を明確に示さず、ペアやグループで互いの考えを出し合うだけの交流であったため、考えの広がりや別の視点からの価値の捉えができなかった。そのため、多面的・多面的に考えることを通して、多様な価値観を認め合うことにつながらなかった。

(3) 子どもの実態から

本学級の子ども25名に対して、6月に行った道徳科の学習に関するアンケート調査では、「道徳で学習したことが、自分の生活とつながっている」と回答した子どもは約35%【資料1】であり、自分との関わりで道徳的価値を捉えられていないと言える。本学級の子どもは、道徳の学習において、求められていると思う答えを書いたり、いつも同じような一面的な考えを書いたりして、道徳的な課題を自分のこととして捉え、考えを深めることができていなかった。そのため、自己と向き合わせる必要があると考えた。

また、「学習したことを実際に『やってみよう』と思うことがある」と回答した子どもは約45%いたが【資料2】、そのほとんどは、価値項目【A節度、節制】（時間に対する意識）、【C公正、公平、社会正義】（挨拶について）であった。しかし、人との関わりに関する項目についての回答は見られなかった。そこで、人との関わりに関する価値項目Bを実践につないでいく必要があると考えた。特に、いじめアンケート

の結果より【B相互理解、寛容】の価値を捉える授業実践を通して、道徳性を高めたいと考えた。

これらの課題から、自分との関わりで深める発問と話し合い活動の工夫を通して、自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子どもを育成する本研究は意義深いと考え、本主題を設定した。



2 主題の意味

(1) 「自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子どもを育てる」とは

「自己の生き方を見つめる」とは、自分を通して自分自身を知ること（「これまでの自分は」「自分だったら」「これからの自分は」）や、他人を通して自分自身を知ることである。

「道徳性を高める」とは、学習活動において、子どもの道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度が多面的・多角的に発展し、道徳的实践につなげていこうとする内面的資質が向上することである。

つまり「自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子ども」とは、常に自分の内面に問いかけながら、道徳的価値の意味や大切さを理解して、よりよい生き方を目指そうとする思いをもった子どものことである。

本研究では、以下に示す三つの特性をもった子どもを目指す。

- 捉えた価値の大切さを理解し、どう生きることが望ましいのかを判断する子ども
(道徳的判断力)
- 捉えた価値の大切さを感じ取り、望ましい生き方を目指そうという思いをもつ子ども
(道徳的心情)
- 自己を見つめ直し、道徳的判断力、道徳的心情によって価値があるとされた行動を日常の生活の中で実践しようとする子ども
(道徳的实践意欲と態度)

(2) 副主題「自分との関わりで深める発問と話し合い活動の工夫を通して」とは

「自分との関わり」とは、全ての場面（実態アンケート、中心人物と自分を置き換える、話し合い活動、今日の学習で）において、常に自分を通して考えることである。

「発問の工夫」とは、自分との関わりで考えられるように、発問の大きさや立ち位置を考えて発問を仕組むことである。

「話し合い活動の工夫」とは、立場シール（事前アンケートによる自分の立場を示すもの）や立場カード（中心場面での自分の立場を示すもの）を使って自分の立場や考えを可視化し、多様な考えを生かして話し合い、多面的・多角的に考えることである。そこで、次のような手立てを講じる。

- 置き換えて立場を問う発問、価値を問う発問
- 立場カードを生かし、討議形式を取り入れた話し合い活動
- 日常生活とつなぐ振り返りやアンケート

3 研究の目標

自分との関わりで深める学習過程を工夫した実践を検証し、自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子どもを育てる道徳科学習指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

相互理解、寛容の価値を捉える授業実践において、常に自分との関わりで深められる発問と話し合い活動の工夫を取り入れた指導を行えば、道徳的判断力・道徳的心情・道徳的実践意欲と態度が養われるので、「自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子ども」が育つであろう。

5 仮説検証の内容と方法

本仮説に取り組むための具体的な方途として、以下の内容や方法を決め、研究に取り組むことにした。

(1) 検証内容

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 発問の工夫 | ② 話し合い活動の工夫 |
| ○ 置き換えて立場を問う発問 | ○ 討議形式による話し合い活動 |
| ○ 価値を問う発問 | |

活動	ねらい	具体的な手順と支援 <手順>	発問
【自己の生き方をさぐる】	自分自身の問題として考える。 他者との交流を通して、自分の考えを広げる。	①資料の中心に据える場面で、主人公の状況から、自分の立場を決め、考えをノートに書く。 ②討議形式で交流し、考えを広げる。 ③主人公の行動について話し合い、価値を捉える。	置き換えて立場を問う発問。 ・〇〇のとき、自分だったらどうするか。 ・違う立場の考えについてどう思うか。
【自己を見つめる】	実態と捉えた価値を照らし合わせて、自己を見つめ、考えを深める。	①今の自分を再度振り返る。 ②今の自分に足りている面、足りていない面を考える。	価値を問う発問。 ・(実態アンケートに戻って)なぜ～だったのか。 ・〇〇する(になる)ために大切なことは何か。

【資料3 検証内容の具体案】

(2) 検証方法

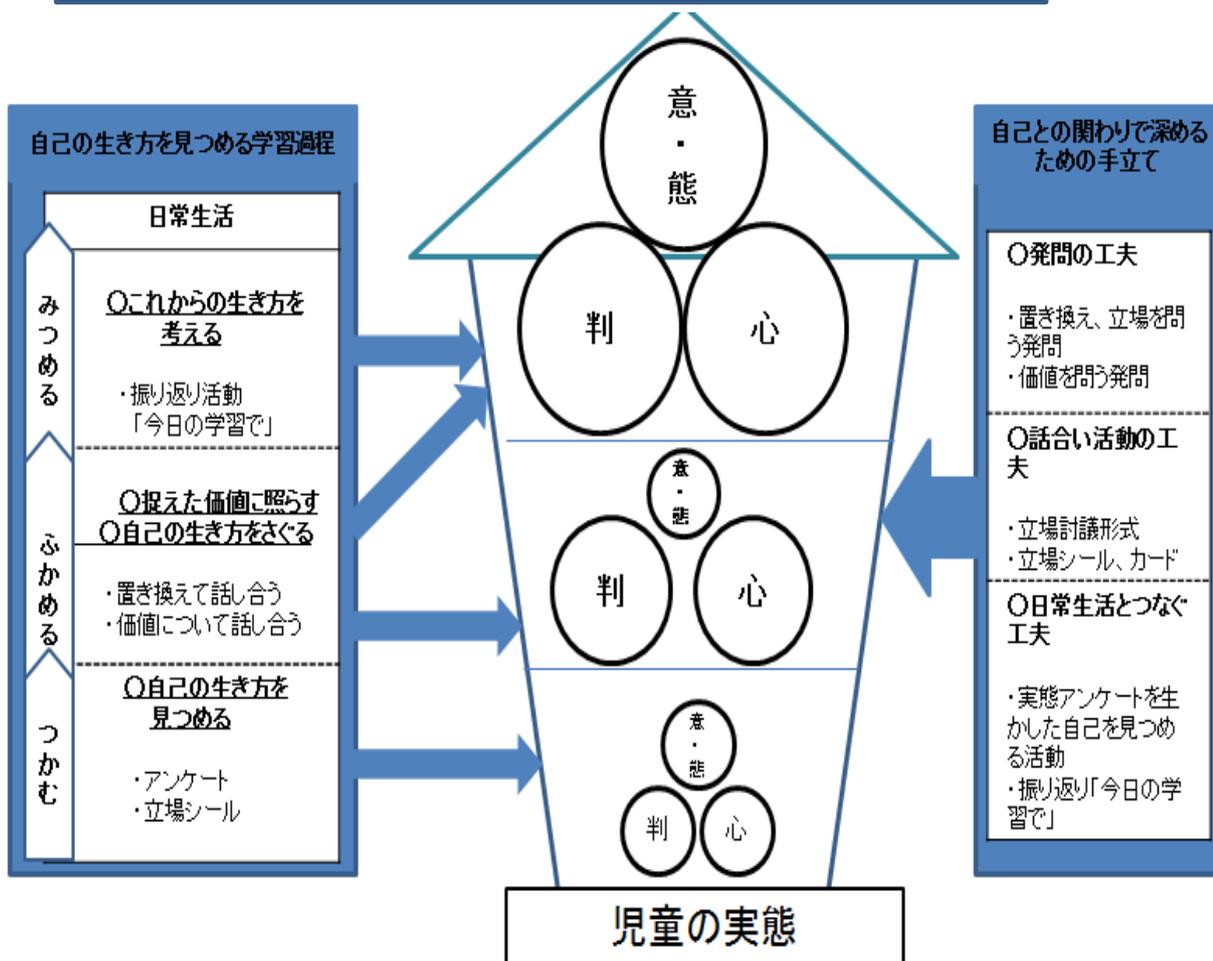
- ① 道徳ノートの記述。
 - 中心場面における自分の立場に置き換えた考えがあるか。
 - 「今日の学習で」に、自分と異なる意見に触れた記述があるか。
 - 「今日の学習で」に、これまでの自分を振り返り、道徳的実践意欲・態度と関連する記述があるか。
- ※「今日の学習で」の3つの視点（今までの自分、今日の学習で、これからの自分）
- ② 子どもの発言
- ③ アンケートや生活日記による実態把握と子どもの考え方の変容

6 研究の計画

	研究内容
6月	研究主題の設定
7月	研究の構想
8月	教材研究
9月	検証授業① 「にぎりしめた いね」内容項目：B相互理解、寛容
10月	教材研究
11月	検証授業② 「わかっているはずだから」内容項目：B相互理解、寛容
12月	成果と課題
1月	研究のまとめ
2月	研究報告

7 研究構想図

自己の生き方を見つめ、道徳性を高める子ども



※判(道徳的判断力)、心(道徳的心情)、意・態(道徳的実践意欲と態度)

② 展開

	学習活動の実際	支援の有効性（○成果●課題）
つかむ	<p>1 事前アンケートの結果を提示し、自分自身の体験を想起させ、学習の方向付けを行った。また、立場シール、立場カードを使って自分の立場を明確にした。（緑：できていない、黄：できている）</p> <div data-bbox="247 689 874 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「わかっているはず」の相手でも、一緒に過ごしていくときに大切なことは何だろう。</p> </div>	<p>○ 事前に生活日記を使ってアンケートに対する答えを書かせておき、「つかむ」段階で自分の経験を正直に出し合うことで、生活と結び付けて、めあてにつながる事ができた。</p> <p>◎ 仲のいい友達の考えやその理由をいつもきちんと聞くことができていますか。</p> <div data-bbox="922 562 1082 591" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>できていない</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びのとき →自分の思い通りにならないから。 どうせまた○○に決まると思っているから。 <div data-bbox="922 696 1054 725" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>できている</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> →自然と決まるから。 相手の話を聞かないと、もやもやさせてしまうから。 <p style="text-align: right;">【アンケート】</p>
さぐる	<p>2 教材「わかっているはずだから」を通して、自分だったら、さくらがめいろを選んだことに納得できるか、それはなぜかを話し合った。</p> <p>置き換える発問：もし自分だったら、さくらがめいろを選んだことに納得できますか。それはなぜですか。</p> <p>○ カードを使って立場を示した。（できない：緑、できる：黄）</p> <div data-bbox="247 1151 874 1550" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p style="text-align: center;">【資料6 道徳ノート A児(左)、B児(右)】</p> <p>価値を問う発問：真由が「一人おこっていた自分がはずかしくなった」のはなぜでしょう。大切なことは何でしょう。</p> <div data-bbox="247 1697 874 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を聞いていなかった。（考えていなかった。） ・「仲よしだったら同じじゃないといけないかな」という話を聞いて自分の態度を後悔した。 ・さくらの思いを知って、認めようとした。 <p>【価値の捉え（子どもの発言）】</p> </div> <div data-bbox="247 1921 874 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大切なことは、自分の思いだけで友達のことを決め付けたり、否定したりせずに、受け止める心をもつこと。</p> </div>	<p>T：同じ立場の意見に付け加えや違う立場の意見に対して自分の考えを發表しましょう。</p> <p>（できない→できる）</p> <p>C1：ずっと一緒にいたのにわたしの意見に賛成してくれなかったから。</p> <p>C2：今までずっと同じだったのに違う意見に賛成したのは納得できない。</p> <p>（できる→できない）</p> <p>C3：悲しい気持ちは分かるけど、相手(友達)にも理由があるので自分の(都合の)いいようにしてはいけない。</p> <p>C4：「ずっと一緒にいたのに」という意見に対して、仲よしでも考えは違うし、友達なら意見が違っても仕方がないから。</p> <p style="text-align: center;">【立場討議形式を取り入れた話し合い活動】</p> <p>○ 自分の経験とつなげて、考えを書いたり発表したりしている子どもが多く見られた。</p> <p>○ 違う立場の考えを認めたり、どの考えに対して意見なのかを述べたりした上で、自分の考えを發表することができた。</p> <p>○ 教材文から根拠となる部分を用いたり、自分や友達の考えをもとにしたりして価値を捉えることができた。</p>

みつめる

3 これまでの自分を振り返りながら、これからの自分について、「今日の学習で」にまとめた。

【A児】

【資料7 「今日の学習で」A児(左)、B児(右)】

【B児】

○ 「今日の学習で」の3つの視点に沿った書き方に沿った振り返りが書ける子どもが増え、自分を見つめ、今後の自己の生き方について考えられる子どもが増えた。

○ ある子どもの事前の生活日記を紹介することで、価値の捉えを強化したり、実践意欲につながりやすくなった。

A君がB君に「トランプしよう」と言い、B君が「いいよ」と言って、ぼくもうなずいていたのに、A君がぼくにも「トランプでいい？」と聞いてくれました。その日からぼくも、A君だけでなくB君の考えも聞いたらいいなと思いました。

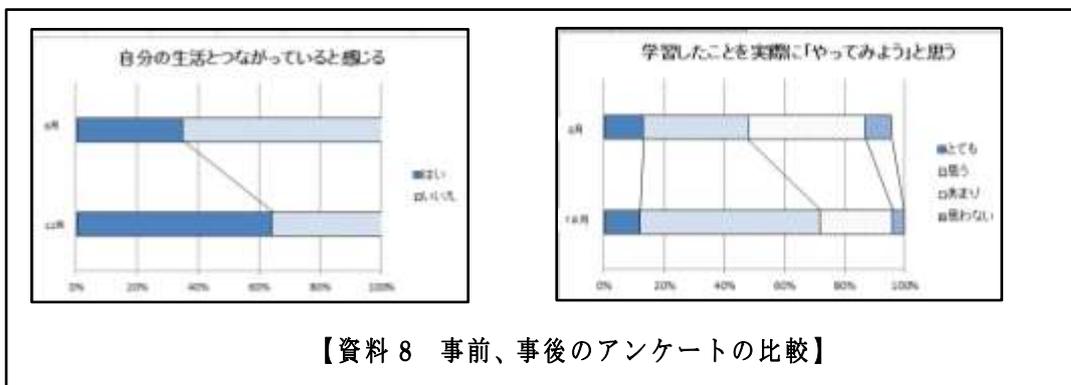
【紹介した生活日記の内容】

③ 検証2の考察（ノートの記述より、ねらいを達成できた子ども 約26%）

- 討議形式の話合いを取り入れたことで、多様な考えを聞き合ったり、それをもとに自分の考えを述べ合ったりして、考えを広げることができたと考える。
- 討議形式の話合いにより多様な考えを認め合い、価値を問う発問をしたことで、より納得しながら価値を見出すことができ、友達とよりよく関わろうとする意欲につながったと考える。
- 検証1よりも、発問と討議形式の話合いを通して、考えを広げたり納得して価値を見出したりできたことが、自己の生き方を見つめて、価値を捉えることにつながったと考える。

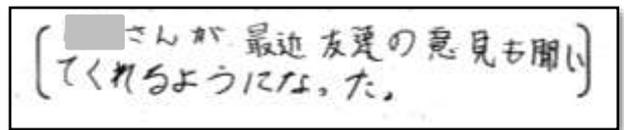
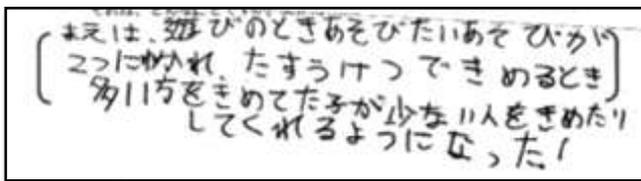
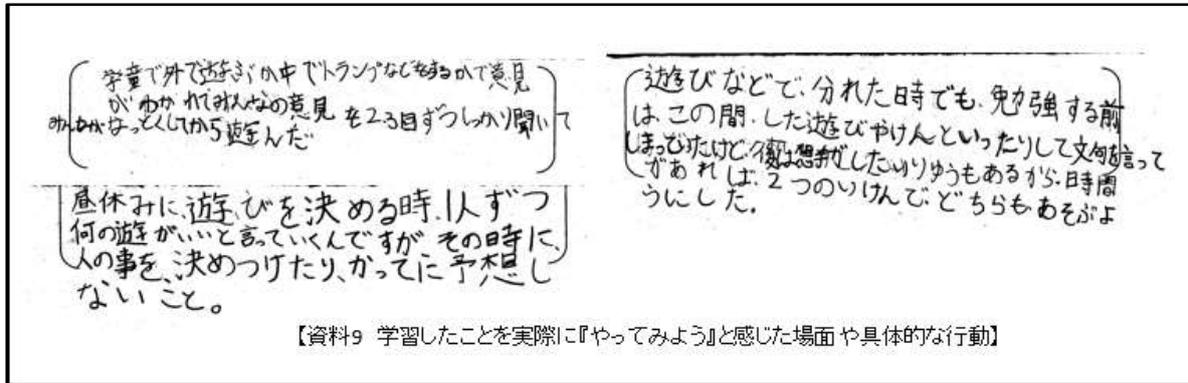
9 全体考察

事前と事後のアンケートの比較から、両方の項目において、大きな伸びが見られた。これは、自己の生き方について常に自分との関わりで考えさせる立場の可視化や発問を行ったことで、自分の日常生活の事象と重ねて考えることができるようになり、実践意欲につながってきていると捉えた。



また、それに加え、「友達との関係で前と変わったことはあるか。」という質問をし、自由記述をさせた。すると、【資料9】のような記述が見られた。このことから、【B相互理解、寛容】の教材で討議形式による話合い活動を行い、多様な考えを認め合っ

値を見出したことで、日常の友達との関わりでも、異なる意見を理解しようとする姿につながってきていると捉えた。さらに【資料 10】の記述から、捉えた価値を日常生活につないでいる友達の姿に気づき始めている子どももうかがえる。これらの子どもの姿から、学習を通して互いの生き方を見つめ直し、望ましい行為に気づき、心地よさを感じたり判断したりする力が高まってきていると捉えた。



【資料 10 アンケートの記述】

10 研究の成果と課題

- つかむ段階で立場シール、ふかめる段階で立場カードを使って自分の立場を可視化し、自分との関わりで考えさせたことで時間軸の視点で自己を振り返ったり、心の変容に気付いたりすることができ、自己の生き方を見つめることにつながった。
- 置き換えて立場を問う発問と価値を問う発問を行い、討議形式の話合い活動を取り入れたことで、多面的・多角的に考えを深めることができた。
- より、多面的・多角的思考を深めていくための視点移動を生かした発問の工夫や、立場カードを有効活用した交流のさせ方の工夫が必要である。

<参考文献>

- ・文部科学省 平成 27 年 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 東洋館出版社
- ・福岡県教育委員会 平成 30 年 3 月 道徳教育実践ハンドブック vol. 2
- ・押谷由夫 平成 29 年 3 月 平成 29 年改訂小学校教育課程実践講座特別の教科道徳
ぎょうせい